

チアメトキシサム粒剤 アクタラ粒剤 5	取扱メーカー： シンジェンタ 原体メーカー： シンジェンタ
成分： チアメトキシサム〔ネオニコチノイド系〕……………0.5%	性状： 類白色細粒 毒性： 普通物 消防法： ——

【品目特性】……………

- 植付け前の一回処理で、さまざまな害虫から約 1 カ月間、大切な苗を守ることができる。
- 極めて低い薬量で害虫密度を長期間抑制する。
- 浸透移行性に優れ、作物の生長点まで防除できる。
- 作物への吸収が効率的で、効果が安定している。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【薬効・薬害等の注意】……………

- かんぎつに本剤を用いる場合は、今期に収穫見込のない苗木に対して使用し、散布後軽く散水する。なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでに 2 週間程度期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に散布する。
- 床土混和処理では、薬剤を均一に混和する。
- こんにやくに使用する場合には、培土作業をする直前に、株元散布する。
- 床土混和処理では育苗期間中の苗管理において、過度の乾燥後に灌水するなど薬剤が急激に吸収されるような条件では薬害を生じるおそれがあるので、十分注意する。
- キャベツのセル成型育苗トレイに使用の場合は、散布後に軽く散水などを行い本剤が茎葉に残らないようにする。

- れんこん、せりに使用する場合は、湛水状態を保ち、散布後少なくとも 7 日間は落水、かけ流しはしない。

● 共通注意事項 8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】……………

- つまみ菜、間引き菜には使用しない。
- ミツバチ及びマルハナバチ等に対して影響があるので、ミツバチ及びマルハナバチ等の巣箱及びその周辺にかからないようにする。
- ミツバチ、マルハナバチを導入する場合、処理後 21 日目以降から導入する。
- 魚類に影響を及ぼすので、使用時は注意。
- 共通注意事項 6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。



【適用と使用方法】

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキサムを含む農業の総使用回数
きゅうり	—	アブラムシ類 コナジラミ類 トマトハモグリバエ	1 g / 株	定植時	1 回	植穴処理	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
なす		ミナミキイロアザミウマ マメハモグリバエ コナジラミ類 コガネムシ類幼虫		育苗期後半		株元散布	
		アブラムシ類					
		ミカンキイロアザミウマ	2 g / 株	定植時		株元散布	
トマト		ハモグリバエ類	1 ～ 2 g / 株				植穴処理
		コナジラミ類	1 g / 株			育苗期後半	株元散布
ミニトマト		ハモグリバエ類	1 ～ 2 g / 株	定植時		植穴処理	3 回以内 (粒剤の処理は 1 回以内、散布 は 2 回以内)
		コナジラミ類	1 g / 株	育苗期後半		株元散布	
ピーマン		ミナミキイロアザミウマ	2 g / 株	定植時		植穴処理	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
		アブラムシ類	1 g / 株				
とうがらし類							4 回以内 (定植時の植穴 処理は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
ブロッコリー		コナガ	セル成型育苗 トレイ1箱又は ペーパーポット 1冊 (30×60cm・ 使用土壌約3～ 4ℓ) 当り20～ 30 g	は種時		散布	4 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)
		アオムシ コナガ ハイマダラノメイガ	2 g / 株	育苗期後半			
カリフラワー		アブラムシ類	0.5g/ 株				

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキシムを含む農薬の総使用回数
キャベツ	—	アブラムシ類	セル成型育苗 トレイ1箱又は ペーパーポット 1冊 (30×60 cm・ 使用土壌約3～ 4ℓ) 当り30 g	育苗期後半	1回	散布	4回以内 (定植時までの 処理は1回以内、 定植後の散布は 3回以内)
			1～2 g / 株			株元散布	
			2 g / 株	定植時		植穴処理	
			苗地床 1m ² 当り6 g	は種前		全面土壌混和	
		ハイマダラノメイガ	セル成型育苗 トレイ1箱又は ペーパーポット 1冊 (30×60 cm・ 使用土壌約3～ 4ℓ) 当り20～ 30 g	は種時		散布	
				定植時		植穴処理	
		アオムシ	2 g / 株	育苗期後半		株元散布	
		コナガ	15 g / 培土 ℓ	は種前		床土混和	
			セル成型育苗 トレイ1箱又は ペーパーポット 1冊 (30×60 cm・ 使用土壌約3～ 4ℓ) 当り20～ 30 g	は種時		散布	
		アオムシ	2 g / 株	育苗期後半		株元散布	
はくさい		コナガ	15 g / 培土 ℓ	は種前		床土混和	
だいこん		アブラムシ類	1～2 g / 株	育苗期後半		株元散布	
			4kg/10 a	は種時		作条混和	3回以内 (は種時の作条混和は1回以内、散布は2回以内)
すいか			2 g / 株	定植時	2回以内	植穴処理	4回以内 (粒剤の処理は1回以内、散布は3回以内)
いちご			1 g / 株				4回以内 (定植時の植穴処理は2回以内、散布は2回以内)

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキシムを含む農薬の総使用回数
メロシ	ー	ハモグリバエ類	2 g / 株	定植時	1 回	植穴処理	4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)
		アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ	1 g / 株				
レタス		アブラムシ類	0.5 g / 株	育苗期後半		株元散布	3 回以内 (種子への処理、水和剤の灌注及び粒剤の処理は合計 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)
		ナモグリバエ					
		非結球レタス	アブラムシ類	0.5 g / 株		育苗期後半	株元散布
ナモグリバエ			15 g / 培土 ℓ				
やまのいも			ナガイモコガ	6 kg / 10 a		植付時	植溝 土壌混和
		アブラムシ類	萌芽期				
かんしょ			コガネムシ類幼虫			6 ～ 9 kg / 10 a	
		アブラムシ類 コガネムシ類幼虫		6 kg / 10 a			
さといも			アブラムシ類	2 ～ 6 kg / 10 a		植付時	作条混和
ねぎ		ネギアザミウマ	6 kg / 10 a	は種時		4 回以内 (定植時までの処理は 1 回以内、定植後の処理は 3 回以内)	
		わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6 ～ 9 kg / 10 a		植付時	
あさつき			1 回				
のぎわな こまつな		アブラムシ類	6 kg / 10 a	は種時		3 回以内 (は種時の作条混和は 1 回以内、は種後は 2 回以内)	
チンゲンサイ		アブラムシ類 ハモグリバエ類		定植時		3 回以内 (定植時の作条混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)	

作物名	適用場所	適用害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	チアメトキシムを含む農業の総使用回数	
セ ル リ ー	—	ナモグリバエ	2 g / 株	鉢上時	2回以内	土壌混和	2回以内 (鉢上時の土壌混和は1回以内、 定植時の植穴処理は1回以内)	
				定植時		植穴処理		
せ り	水田	アブラムシ類	3 kg /10 a	親株養成期 但し、収穫 100日前まで	1回	湛水散布	1回	
ほうれんそう			6 kg /10 a	は種時		作条混和	3回以内 (種子への処理及び は種時の作条混和は合計1回 以内、散布は2回以内)	
かんきつ (苗 木)	—	ミカンハモグリガ	20～40g/ 樹	育苗期	2回以内	株元散布	3回以内	
		コナカイガラムシ類 ミカンキジラミ	20 g / 樹					
れんこん		クワイクビレアブラムシ	6 kg /10 a	収穫14日 前まで	3回以内	湛水散布		
にんじん		コガネムシ類幼虫	6 kg /10 a	は種時	1回	全面土壌 混和	1回 4回以内 (は種時の全面土壌 混和は1回以内、 散布は3回以内)	
かぶ		アブラムシ類					4回以内 (は種時の作条混和 は1回以内、散布 は3回以内)	
しゅんぎく		ハモグリバエ類				作条混和		
つつじ類		コガネムシ類幼虫	9 kg /10 a	生育期			株元散布	5回以内
		ツツジグンバイ		植付時			全面土壌 混和	
				6～9 kg /10 a		生育期		
げっきつ		ミカンキジラミ	40 g / 樹		3回以内		3回以内	
こんにゃく		アブラムシ類	6 kg /10 a	培土時 (但し、出 芽前まで)	1回	株元散布	1回	
花き類・ 観葉植物				生育期			6回以内	